

米国における女子大生のレイプ被害報告件数、アメフト最強豪大学の試合開催日に増加する傾向（12月28日）

全米経済研究所（National Bureau of Economic Research : NBER）は12月28日、テキサス A&M 大学（Texas A&M University）経済学部ジェイソン・リンド准教授（Jason Lindo）らによる、米国における大学生年齢（17～24歳）女性のレイプ被害に関する研究報告書「大学のパーティー文化と性的暴行（College Party Culture and Sexual Assault）」を発表した。これによると、全米大学競技協会（National Collegiate Athletic Association : NCAA）の「ディビジョン I-A（Division I-A）」に分類されるアメフト最強豪校の試合が開催される日には、レイプ被害報告件数が通常の28%増加することが明らかにされた。特に、ホームゲーム開催日の増加率は41%で、アウェイゲーム開催日の増加率15%を大きく上回るという。これは、アメフト最強豪大学128校において、年間253～770人の大学年齢女性が試合開催日にレイプ被害に遭っていることになる。この傾向は、NCAA ランキングのやや低い「Division I-AA」に分類される大学では、ホームゲーム開催日のレイプ被害報告件数増加率は31%で「Division I-A」の大学よりも低い他、「Division II」及び「Division III」に分類される大学のアメフトの試合に関しては、レイプ被害報告件数増加は見られなかったという。また、リンド氏は、アメフトの試合開催日には、パーティー特有の行動で特に飲酒が顕著に増加する傾向を指摘し、過去の研究結果からは、飲酒運転などの問題報告件数や逮捕件数も増加することが明らかにされていることに言及した。リンド氏は、同研究結果を意識向上や被害予防などに活用できるとしている。

なお、本報告書の要約は、<<http://nber.org/papers/w21828>>から閲覧可能。

Inside Higher ED, College Football, Parties and Rape

<https://www.insidehighered.com/news/2015/12/28/study-finds-increased-rapes-campus-areas-days-big-time-college-football-games>